2026 年 6 月 8 日

インターン体験記

栗山仁渚
所属:秋田大学 国際資源学部
インターン期間:2025 年 9 月

参加のきっかけ

大学の講義で資源や発電の仕組みを学ぶ過程で、エネルギーがどのように社会へ届けられているのか、技術だけでなく政策や経済、地域社会といった要素がどのように関わっているのかに関心を持つようになりました。そこで、再生可能エネルギーの社会実装を支える制度や地域の取り組みについて実際に学び、理解を深めたいと考え、ISEP のインターンシップに応募しました。

インターン内容・学んだこと

地方からの参加だったため、約 1 か月のインターン期間のうち最初の 1 週間を東京で対面参加し、その後 3 週間をリモートワークで活動しました。
主な業務として、再生可能エネルギーと生物多様性の関係についての情報収集や、国内外のエネルギー政策・事例のリサーチなどを行いました。また、スタッフの方々の業務や外部との打ち合わせに同席させていただく機会もありました。

特に印象に残っているのは、エネルギーと環境、生物多様性の関係について調査した業務です。文献を読み進める中で、気候変動対策として推進される再生可能エネルギーが生態系や土地利用の面では新たな課題を生む場合もあることを知りました。関係性を図に整理する作業を担当しましたが、問題の複雑さに何度も悩みました。この経験から、エネルギー問題を単純な善悪で捉えるのではなく、多様な要素のつながりを意識しながら考える重要性を学びました。

また、地域エネルギー事業の事例調査や打ち合わせへの参加を通じて、再生可能エネルギーの導入には制度設計や地域との合意形成、環境への配慮など、多くの要素が関わっていることを実感しました。技術の優位性だけでなく、それを支える制度や地域との協働が不可欠であることへの理解が深まりました。

インターン期間中は、スタッフの方々やインターン生との交流も大きな刺激となりました。それぞれ問題意識やテーマを持ちながら活動されていて、新しい視点に触れて日々驚きの連続でした。エネルギーについての幅広い問題の捉え方や、社会課題に対して粘り強く向き合う姿勢を学びました。

まとめ

以前から資源やエネルギー分野の技術面に関心を持っていましたが、ISEP での経験を通じて、単に技術そのものではなく、それがどのように社会の中で選択され、産業や地域の発展に結びついているのかという視点を得ることができました。また、再生可能エネルギーをめぐる課題は、気候変動、生物多様性、地域社会など多様な要素が関わる複雑な問題であることを実感し、今後さらに学びたいテーマも広がりました。

インターンシップへの参加は、私にとって大きな挑戦でした。しかし、多様な背景や問題意識を持つスタッフやインターン生の方々と出会ったことで、自分にはない視点に触れ、物事をより広い視野から考えるきっかけを得ることができました。

短い期間ではありましたが、再生可能エネルギー業界の変化のスピードや、その社会的な広がりを体感できたことも大きな学びとなりました。エネルギーや環境分野に関心を持つ方はもちろん、社会課題を幅広い視点から考えてみたい方にとっても、多くの気づきを得られるインターンだと感じています。最後まで読んでいただきありがとうございました。

このような貴重な機会をいただき、丁寧にご指導くださった山下さんをはじめ、ISEP の皆様に心より感謝申し上げます。